

## 事業報告書

1. 件名：台風15号、17号による千葉県の被害に係る災害復旧支援活動
2. 期間：2019年9月17日（火）～2020年3月31日（第1フェーズ）
3. 場所：千葉県鋸南町を中心とした南房総地域
4. 目的：2次被害の防止と被災者の安心・安全な生活の確保、および、地域における復旧・復興活動の促進
5. 概要：① 被災家屋の屋根等応急修理  
② ボランティアコーディネート  
③ 地域における担い手の育成  
④ 上記①～③に係るニーズ調査や地域との調整等
6. 資金：4,000,000円 ※概算  
うち「震災がつなぐネットワーク」からの支援金 706,381円
7. 内容：

### （1）被災家屋の屋根等応急修理

活動日数と対応件数、および活動ボランティア数

（表1）

月	活動日数	述べ対応ニーズ数	活動ボランティア数
9月	12日	24件	82名
10月	19日	34件	88名
11月	25日	40件	222名
12月	17日	23件	93名
1月	14日	19件	80名
2月	12日	18件	88名
3月	25日 ※予定		
計	124日	118件	549名

9月18日（水）に関係団体との情報共有を実施し、屋根等応急修理の人員が不足している鋸南町を中心として活動することを決定しました。

活動に関しては、鋸南町社会福祉協議会（以下、鋸南社協）とのニーズ共有を通し活動世帯を決定する一方、9月、10月は台風の2次被害が予見されたことから、現地での緊急性の高いニーズに関しては、その場で活動を実施するなど対応を実施しました。

その後、張り直しニーズの対応を行いつつ、「雨漏り」「カビ」等、未だ不自由な生活を強いられる世帯が散見されたこともあり、年末に向け可能な限りそのような世帯を少なくし、安心して新年を迎える環境を作ることを念頭に活動を実施しました。

1月以降、最初の屋根の応急処置から3カ月以上が経過することもあり、当初養生したブルーシート の劣化や剥がれ等も目立ってきており、現在も現地にてニーズに対応しています。

今後、次の梅雨、台風シーズンが迫ってきており、各世帯の将来的な修理・改築等の状況も踏まえ、優先順位を持って活動を継続（第2フェーズとして対応を検討）する予定です。

## （2）ボランティアコーディネート

表1に記載する通り、9月～2月末までで549名が活動を行っています。

屋根での活動は安全確保の点から、一般のボランティア活動は難しいものの、地上での活動については一般ボランティアによる活動も必要であり、作業手順等踏まえコーディネートを実施しています。

屋根上の活動については、高所作業車を利用するなど十分に安全に配慮するとともに、安全器具の装着、活動手順等確認など、細心の注意を払いつつコーディネートの実施を考えています。

## （3）地域における担い手の育成について

10月以降、鋸南町在住の植田さん、川村さんが活動に加わり、継続してボランティア活動をする中で、屋根応急修理等についてノウハウを伝えてきました。

結果、両名が中心となり災害ボランティアチーム「Revive(リバイブ)」を設立し、現在は2名が主となり活動することが可能となっています。

コミサポでは、過去の被災地での経験から、外部支援者ではなく地元地域が復旧・復興を担うことが重要だと考えており、今回の「Revive」の設立に対し、一定の役割を果たすことができたと考えています。

今後、第2フェーズの活動を検討するに当たり、引き続き同団体へのノウハウ・知見の共有を心がけ、地域の担い手育成に貢献したいと考えています。

## 8. 活動の効果（成果）

- （1）雨漏り等2次被害防止によりお被災者の生活環境と安心・安全の確保。
- （2）活動中の被災住民・地域とのコミュニケーションを通じて、被災者の心のケア。
- （3）地域の担い手となる団体「Revive」設立の契機を作ることができたとともに、今後の復旧・復興に繋がるノウハウの共有。
- （4）上記、（1）～（3）を通し、被災地における復旧・復興、被災者の生活再建への貢献。

※具体的な数値については（表1）を参考

## 9. 活動対象となった住民の声

活動を実施した世帯の皆さんからは多くの声を頂いていますが、以下、抜粋して記載します。

「被災から数カ月間、雨漏りを避けて寝床を確保してきたが、これで雨を気にせずに普通の生活を送ることができ、安心しました」（高齢者夫妻）

「これまで消防団や大工さん、色々なところに相談したが『できない』と言われ諦めていたが、こうやって直してくれて次を考えられるようになりました」（古民家在住の高齢男性）

「雨や強風の度に、屋根が飛んでご近所さんに迷惑がかからないか心配していたが、これで安心して休むことができます」（高齢者夫妻）

## 10. 今後の活動について：

現状のニーズ数、地域の現状を考えた場合、次の梅雨シーズン、台風シーズンに向けた張り直し等

のニーズが一定数発生すると考えられます。

鋸南社共、「Revive」「ピースボート災害ボランティアセンター」等、協力団体とも情報共有を行いつつ、継続的に活動する方向で現在検討しています（2020年10月までを予定）。

なお、過去の被災地支援の経験から、屋根の被害の復旧には数年を要することが予想され、その点を踏まえ、長期的な関わり方についても考えていく予定です。

#### 1.1. その他：

屋根の応急修理について、コミサポ広島では、熊本地震、鳥取県中部地震、島根県西部地震等、複数の被災地で活動を実施してきました。

その間、協力団体等ともノウハウを共有しつつ、UV土嚢や3,000番台のブルーシートの利用等、様々な工夫を実施してきました。

しかしながら、各地で災害が多発する現状において、ブルーシート等を撤去し修理が終了するまで一年以上、時には数年を有するケース、また、本格的修復が為されないケースも少なくありません。

そのため、応急修理といえども年単位での耐久性が必要という考えから、今回の支援では、シルバーシートの利用、ルーフィングや耐久性を維持する材料を活用しています。

引き続き協力団体ともノウハウを共有するなかで、より被災者、被災地の現状にあった手法を考えていくことで、被災地の復旧・復興に寄与したいと考えています。

協力団体： Revive、ピースボート災害ボランティアセンター、フェニックス救援隊、鋸南町社会福祉協議会、ADRA Japan 等  
※抜粋

活動写真：



活動風景



屋根の応急処置（シートの養生）



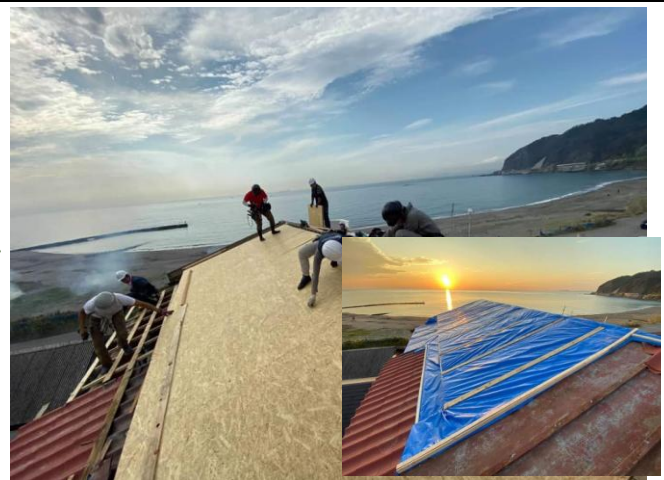
高所作業車の活用とトタンの張り直し



剥がれたトタンの張直し後



強風等で剥がれたブルーシート



コンパネによる補強と張り直し





損傷箇所（活動前）



損傷箇所（活動後）



耐久性の高いシルバーシートによる処理



必要に応じてルーフィング等も活用



瓦の差しかえによる養生面積の削減



波板等の活用